

一歩前進 校長室からのつぶやき

私自身が思っていること、考えていることをつぶやきたいと思います。

他者を尊重する精神

10月の国民の休日といえば、「スポーツの日」です。「スポーツの日」は、以前は「体育の日」という名称でしたが、今から7年前に改められました。「スポーツの日」の意義は何か、皆さんは考えたことがありますか。

実は、「スポーツを楽しむ、他者を尊重する精神を培うとともに、健康で活力ある社会の実現を願う」ことにあります。

「スポーツを楽しむ」というのは、皆さんもよく理解できていると思います。保健体育の授業や体育大会、クラスマッチ、部活動等を通して、皆さんはスポーツを楽しんでいると思います。ただ、「他者を尊重する精神を培う」ことを私たちは意識しているでしょうか。つい忘れてしまっていないませんか。でもこれはスポーツにとってとても大切なことなのです。

そのことを改めて思い起こさせてくれたのが。2021年の東京オリンピックです。新型コロナウイルスの感染拡大で史上初の1年延期となり、大部分の会場が無観客となるなど、異例づくめの大会でした。しかし、その中で選手たちは、国籍や人種などの違いを超えて競い合い、互いを認め合うスポーツマンシップを発揮しました。その中で特に「他者を尊重する精神を培う」を感じたのが、初採用となったスケートボードの競技です。

転倒した岡本選手のもとに、アメリカ、オーストラリア、ブラジルの選手らが駆け寄り、岡本選手を担ぎ上げました。また、金メダルを取った13歳西矢選手は、失敗しても笑顔で戻ってきたかと思えば、いい演技をした他の選手を称えていました。また、スケートボードの選手たちは、よく転びましたがそのたびに励まし合っていました。そこに国境はなく、年齢の差もありません。あるのは、一人一人へのリスペクトだけです。オリンピック憲章にある「友情、連帯、フェアプレーの精神」を強く感じました。

「他者を尊重する精神」、これは、もちろんスポーツの世界だけで求められているものではありません。日常生活の中でも大切にされなければならないものです。自分とは違う人を、自分とは違うからこそ認め合い、尊重し合っていきたいものです。そうすることによって、この学校は誰もが安心して過ごせる学校になります。これからの生活で、今まで以上に、一人一人を認め合い、尊重していけるように願っています。

